

2023年度報告書

東京都豊島区における
「子ども第三の居場所」
コミュニティモデルの運営(2年目)



認定NPO法人
豊島子ども
WAKUWAKU
ネットワーク



目次

- 03 はじめに
- 04 WAKUWAKUホームとは
- 05 利用者数及び、内訳
- 06 WAKUWAKUホームのスタッフより
- 07 Aさんのこと
- 08 WAKUWAKUホームギャラリー
- 10 WAKUWAKUホームについて、利用する子どもたちへのアンケート
- 12 イベント報告
- 15 おわりに

はじめに

2023年5月に、コロナが5類に移行され、少しずつ日常生活が戻ってきました。最初はこわごわマスクをとったりつけたりしていましたが、今は、基本的にはマスクなしの生活を送っています。マスクをしていた方が安心、とマスクを手放さない方もいます。

小学生はほとんどの子がマスクなしで外遊びをしていますし、給食もおしゃべりしながら食べても良いようになりました。地域には、お祭りなどのイベントが戻ってきました。コロナ菌がうつるかもしれないから、ボールを使って体育をすることがダメだったり、上級生が下級生と手をつなぐこともできなったり、そんな異常な事態が去って、本当に良かったです。

そして、この間に、子どもたちにタブレットやPCが配布されました。宿題も明日の持ち物もPCを開いて確認します。オンラインで家にも授業が受けられる環境が整ったのです。

不登校の子どもたちは、24万9千人というおそろしい数となりました。中学校の出席率は6.85%、クラスに2人はいるのがフツーになってしまいました。多いクラスだと5人6人と不登校の子がいます。家でオンラインで授業が受けられるなら、改めて学校の存在意義が問われることとなります。

大事なことは、対話の時間ではないでしょうか。リアルにあって、お互いの表情や言葉と共にある感情を大切にしながら、自分の思いや考えを伝えること。相手を尊重して話を聴くこと。そんな対話の時間を、学校でも家でも実行していただきたい。ホームでも大切にしていきたいと思います。



小学4年生の子が描いてくれた絵です

WAKUWAKUホーム担当 天野敬子

※本事業は、日本財団から助成を受けて運営しています。



WAKUWAKUホームとは

宿泊機能をもつ子どもの居場所。利用料は無料である。貧困、疾病、障害、その他さまざまな理由から養育困難に陥る家族が地域に少なくない。市町村の対応窓口においても、児童相談所においても、全国的に児童虐待相談件数は増加の一途をたどっている。対応件数が増えてくると、重篤なケースを優先せざるを得なくなり、予防的介入はしにくくなる。

一方で、調子の悪い時にちょっと支えてくれる人がいれば、ちょっと預かってくれるところがあれば、危機を乗り越えていける家族もある。子どもを住み慣れた地域から引き離すことなく、安全に、地域で見守り育てていくために、地域住民にできることを提供するのがWAKUWAKUホームである。地域住民主体のNPOが、すべての子どものwellbeingをめざして、支援機関と連携しながら、貧困・虐待の連鎖を断つために活動している。

宿泊機能

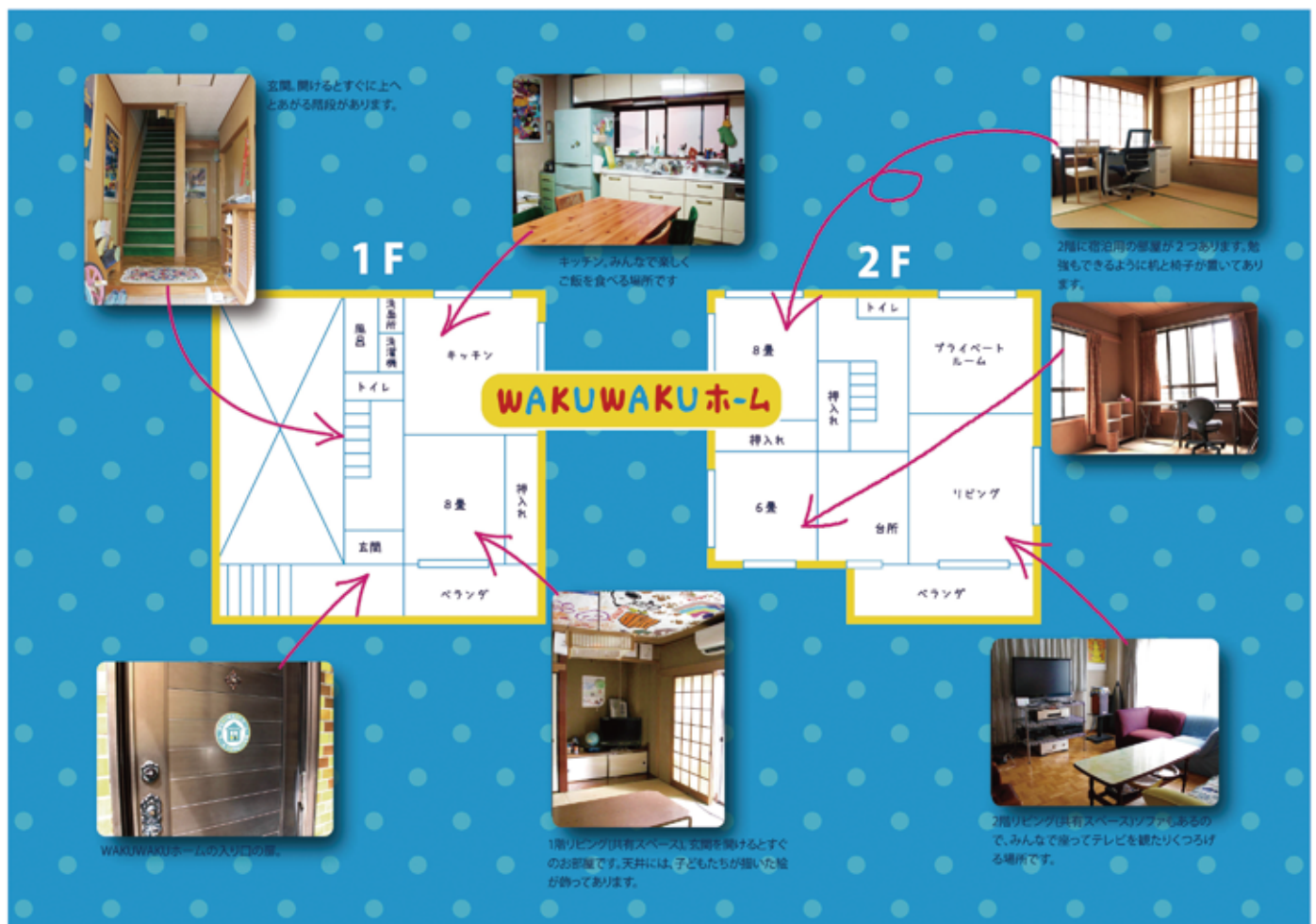
急な出張、緊急入院、今日は鬱で動けない、そんなさまざまな保護者の事情に応じて、柔軟に宿泊対応をしている。家に帰りたくないやってくる子どももいれば、子どもと距離をとりたいという親もいる。必ず保護者の了承のもとにお預かりしている。

居場所機能

火曜日から土曜日までは、ホームをオープンにしている、地域の子どもたちが遊びに来る。サポートしてくれる学生ボランティアや地域のボランティアさんがいる。

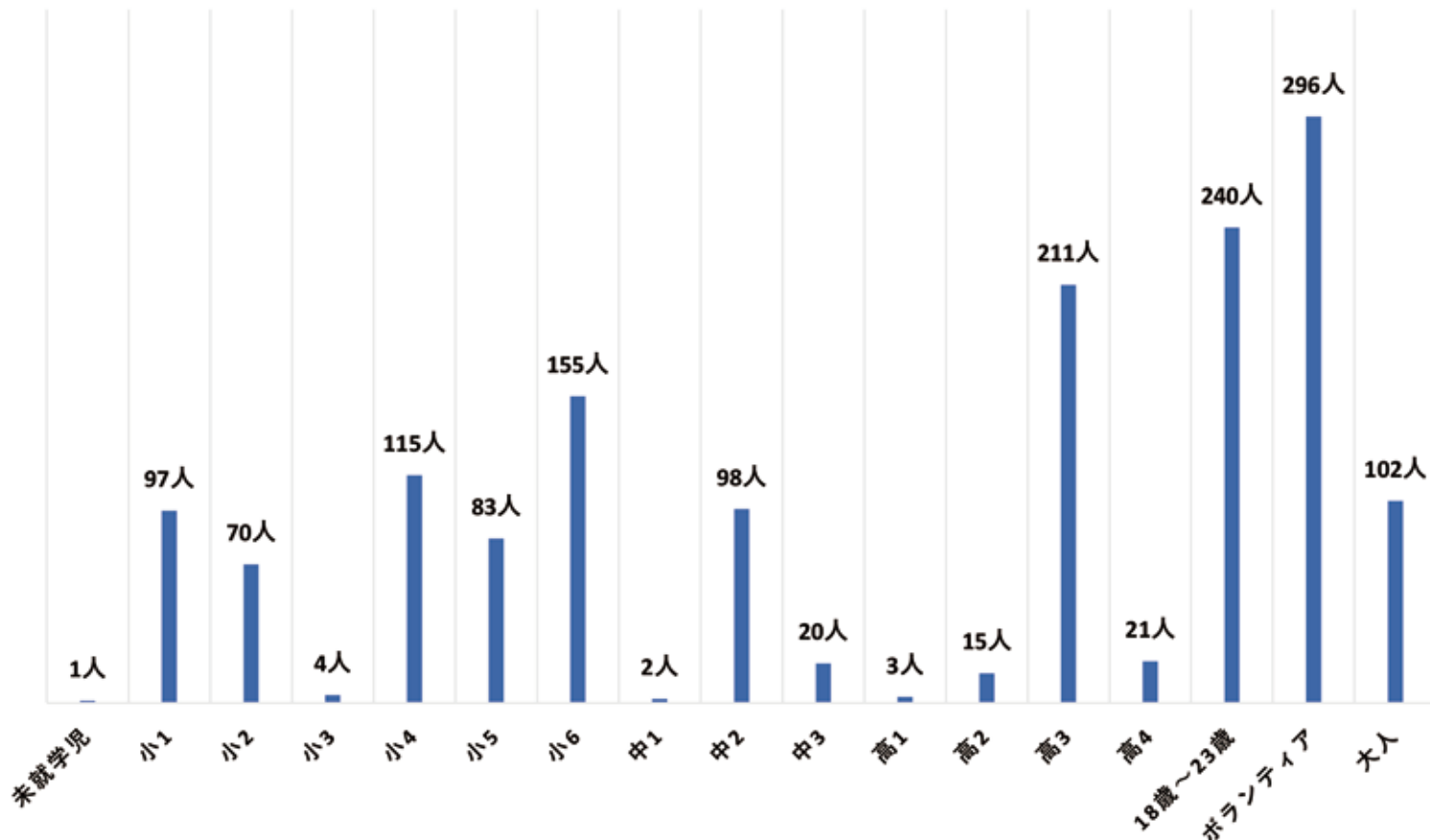
相談機能

子どもと保護者の相談に随時応じている。



利用者数及び、内訳

年間利用者数(宿泊者数の参加人数を除く) 延べ 1533人



月別宿泊利用数 延べ 453泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
3人	4人	4人	5人	7人	4人
31泊	34泊	33泊	47泊	55泊	35泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
7人	4人	4人	6人	5人	3人
38泊	36泊	34泊	38泊	35泊	37泊

WAKUWAKUホームで行っているグループ活動

シンママおしゃべり会(奇数月の第二日曜日)

シングルマザーさんが集まって、気楽におしゃべりをしています。シンママ同士だからこそ共感できることがたくさんあります。毎回4~5名程参加。

不登校の親の会(偶数月の第二日曜日)

共通の悩みをもつ者どうしなので、共感的受容的にお互いの話を聴くことができ、エンパワメントされて帰っていかれます。毎回4~5名程参加。

WAKUWAKUホームのスタッフより

馬橋 はな(火、水、木曜 勤務)

去年の春からWAKUWAKUホームのスタッフになりました。生活に不安や悩みを抱えている子ども達と関わりたいと以前から思っていたので、そんな自分にとっては念願でそして初めての子どもと関わる仕事でした。

様々な背景を抱える子ども達が集う場所。

私がWAKUWAKUホームに来る前に抱いていた印象は、決して明るいものでは無かったかもしれませんが。子ども達はそこでどんな気持ちで過ごしているのだろうか?と気になって仕方ありませんでした。



初めてホームに来た日。私は見学として中に入りました。緊張感を持ってホームの扉を開けましたが、子ども達は恐れる事なく私に人懐こい笑顔に向けてきました。その笑顔で私の中にあつた緊張と先入観がどんどん溶けていきました。(WAKUWAKUホームは子ども達の笑顔を守っている場所なんだ。)私の中で印象が固まりました。

さて、実際にホームに務めて1年が経ちますが、この短い時間の中でも子ども達の変化や成長を感じる機会が沢山ありました。ホームでは遊んでくれる大人に慣れてきている子どもが多い中、やけに大人びていて真面目な印象を受ける子どもの存在がありました。当初、私はその子に対して(真面目でしっかりしているし、優等生なのかな?)という印象を持ちました。

ところがそんな姿は2か月も持たず、1か月が経過する頃には、私の肩に足を乗せてケラケラと笑う無邪気な男の子へと変わっていました。文句一つこぼさず取り組んでいた宿題にも、「めんどくせ〜」と言って体をのけぞらせます。そんな姿を見て、不思議と私の中に嬉しい気持ちが湧いてきました。自分の前で猫を被ってくれる子ども達の姿はすっかりいなくなってしまうけれど、誰かを

石平 晃子(金曜 勤務)

2年前、たった一日とはいえ、ホームのスタッフを引き受けるかどうかちょっと迷いました。

かつて別の居場所でスタッフ経験があるとはいえ、既に50代の私。小中高生の会話についていけるか?ゲーム全くわからないし。その辺りのことは、いつか若いボランティアさんが来てくれたらお願いすればいいだろうと願いながら早2年。若ぶった背伸び?はせず、ご近所の地域の仲間という気持ちで関わっています。

実家に帰省すると、今でも買い物や母のウォーキングに付き合ってる途中で「あら〜あっこちゃん、久しぶりね〜!」とおじいさん、おばあさんになったご近所の方に声を掛けられ、あっこちゃんと呼ばれた私は、幼かったころの安全地帯にいた感覚を思い出します。私は全く気付いてなかったけど、いつも私を包んでくれる眼差しの中で育ってんだなと、それはお金では得られない、私を持続させる栄養素の一つなのではないかと思います。

地域のおばちゃんとして、あなたとこの街で出会えて嬉しい。ご飯一緒に食べられるなんて嬉しい。しかもおしゃべりして歌ったりもして!

ホームやWAKUWAKUが子ども達の困難を直接解決できることは、そうそうない。同じく私のかつてのご近所さんに、私の困難を直接解決してもらったことはない。けれど、居てくれたことがありがたい。

ホームで過ごす今が、未来のあなたに決して冷めない温もりを届けられるといいなと願っています。



坂本 竜作(土曜 勤務)

週1回ホームに関わる中で、子どもたちと一緒にご飯を作ることや、ゲームをして遊ぶこと、話すことなど、一緒に何かをする時間がほとんどです。それぞれが好きな時に来て、好きなように過ごして良い場所なのですが、誰かに促されるわけでもなく、交流が始まり、各々楽しんでます。

話のテーマは年齢によって違うものの、交流自体に年齢は関係なく、大人も中高生も小学生も対等にいられることが良さであり、既存の場所ではなかなか成立しない関係性かなとも感じています。

人と対等に接する機会を重ねられるからこそ、話しているうちに自分に自信がつくなどプラスの気持ちや、ありのままの気持ちを吐き出せる機会にもなっているのではと感じています。

そういった居場所で、子どもたちの話を聞けることがなにより嬉しいですし、僕が子どもたちに奥さんへのプレゼントをどうしたらいいか相談できるのも非常に嬉しく助かっています笑



Aさんのこと

Aさんは、小中学生の頃、当団体が主催する池袋WAKUWAKU勉強会に来ていた。しかし、当時、Aさんは家のことをあまり話さないで、母子家庭という認識しかなかった。大学生になり、母との関係で困ったAさんは大学の先生に相談、先生が当団体を紹介してくださって再びつながることが出来た。

母とケンカをして家を飛び出した。母親は支配的で怒ると暴言がひどい。子どもの頃には母からの体罰もあり、大学で福祉の学ぶ中で、“虐待”を受けながら育ったという認識をもつようになった。今は友人のところに身を寄せているが長くは住めない。家を出て自立して大学生生活を送りたい。母親と生活をしていくのはもう限界だと訴えた。学費は給付型奨学金を受けているので大丈夫。生活費はバイトをしているので何とかなる。ただ、家賃はできる限り安いところでないといけないと思う。という本人の話聞き、若者の居住支援をしているNPOの紹介で、シェアハウスに入ることが出来た。住宅セーフティネット登録物件なので、申請することによって家賃補助が受けられる。4部屋しかないシェアハウスは、この後すぐに満室となった。タイミングが非常に良かったといえる。

その後、Aさんはたまにホームに来て、夕飯を共にしている。バイトをしながら、社会福祉士と精神保健福祉士の資格をとるために勉強している。この3月からは、ホームにボランティアとして定期的に入り、子どもたちのサポートをしてくれることになった。将来は、ソーシャルワーカーとして困難を抱える人をサポートする仕事を希望している。



OSEKKAERU

※おせっかえる・・・WAKUWAKUのロゴはおせっかえるです。当時小学6年生の女の子が描いた原画を元にしてしています。WAKUWAKUではおせっかいを推奨しています。おせっかいをされた子はおとなになって、おせっかいを返すので、「おせっかえる」になります。口元に子ども食堂のご飯粒。頭からはおせっかいの芽が出ています。

みんなで、いろんな遊び!!

子どもたちが集まれば、いろんな遊びを考えて大盛り上がり



クリスマス🎄やハロウィン🎃

季節ごとの行事もみんなで楽しめます!!



スイーツ作りやお絵描き

ゆうさん(天野:夫)と一緒にホームのスイーツを作ったりしました♪



勉強したり、
工作したり
ゲームしたり



料理を食べたり、
作ったり、片づけたり
誕生日を祝ったり



それぞれが、
自由に過ごせる居場所

火、木は、主に小学生が利用し宿題や工作
ボードゲームなどをして遊び、
水、金、土は主に中高生が利用し、TVゲー
ムや勉強などをして自由に過ごしています。
どちらも一緒に夕食を食べて、宿泊する子
以外の小学生は20時まで、中高生は21時
まで利用可能です。





◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

家と同じくらい落ち着く場所。次が楽しみになるほどです。

火曜日は、みんなと話したり、遊んだりするのが楽しいです。

金曜日は、中高生と一緒に、ゲームをしたり話したりするのが楽しみです。しょうがないです。小6

◎WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

金曜日のあきこさんや、火曜日の花さんなどの、しゃべり方も好きで天野さんともよく話したりするのがすごく良い印象として残っています。中学生になっても、WAKU WAKU ホームの火曜日来たいくらい名残おいしいです。小6

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

あそびば。ゲームをしたりしてたのいい。みんなとあそべる。

◎WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

イッシーとゲームしたことあとクンジヨムとと会えたこと。ごはんが、おいしい。小6

◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しい、安心、ごはんが食べれる、ゲームができる。みんなとワイワイして話せる。

◎WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

ごはんをみんなと食べれること。みんなと話すこと。おかしをくれたりした。小4



◎WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

こまごまことや、いやなことがあるときにすぐこれたりするのでとてもいいのつきにあんしんする所です。

◎WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

やさしい人もおもしろい人も、いるから自分らしくいれたり、話すことができて、でかわずくれます。小4



①WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

つじもが 木のしおとろろ

②WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

みんながぶねんが まそんが さとろ

おいでさうをいれいれ ぼんは 3人に たっちを

しまは。 とてもたのしおとろ

小6



③WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

ごはんも食べたり みんなで遊んだりも
色々やるとも 楽しめるといふか
明るいところ

④WAKUWAKU ホームはあなたにとってどんなところですか？

楽しいところ

ごはんがおいしく

⑤WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

カードゲームでみんなも楽しめたこと

公園でおにごっこをしたこと

小5

⑥WAKUWAKU ホームで印象に残っていることは何ですか？

ごはんがデザートも食べて みんなで
おいしく楽しく自分のことを伝
えあっていた時。

小4



保護者の方より(中学生のころから利用していて大学受験に合格)

反抗期と思春期2つ同時にきて、ちょっとした事でも子供が怒って大変だった時に優しく相談に乗って頂きました。

ホームにお世話になり離れる時間が持てた事で子供は「ごめん」という言葉と「話したくないわけじゃない」という言葉を言ってくれるし、「私も話したいだけで、家にいない方が寂しい悲しいんだよ」と伝えられて有難かったです！

大学生ボランティアさんのおかげで高校受験、大学受験を夢に向かって頑張ることが出来ました。学習支援の時間以外で解らない所をリモートで遅くまで教えて頂いたりと申し訳ない位やって頂きました。おかげで大学に合格する事が出来ました。

勉強に必要な食事栄養のバランスを考えられていたり、子供達が好きなメニューにしたりと毎回楽しみだったようで喜んで行っていました。

感謝してもしきれない大切な場所です！

「WAKUWAKUホーム」報告会&「プリズン・サークル」上映会を、IKE・Bizとしま産業振興プラザの多目的ホールにて開催いたしました。「プリズン・サークル」の上映会を探しておられた方たちがいらっしゃったこともあり、約130名の方が参加してくださいました。



「プリズン・サークル」劇場公開日：2020年1月25日 配給：東風 監督：坂上香
官民協働による新しい刑務所であり、受刑者同士の対話をベースに犯罪の原因を探り、更生を促す「TC（Therapeutic Community=回復共同体）」というプログラムを導入している日本で唯一の刑務所でもある「島根あさひ社会復帰促進センター」。取材許可に6年をかけ、2年にわたり日本国内の刑務所に初めてカメラを入れて完成となったドキュメンタリー。

以下はアンケートより抜粋です。

○孤独が生き辛さにつながるため、親も子も1人にしないために、実家のような存在としてWAKUWAKUホームがあるというお話が心に残りました。

○プリズン・サークルでは、他の人と対話を重ねることで罪悪感が生まれたり、今まで自分の中にためていた感情が出てくる受刑者たちの様子をリアルにみる事ができました。

○いろいろな場面の問題（貧困、虐待、犯罪、いじめ、DV）がすべて地続きであることを改めて学ぶことができました。目の前にしている問題を表面だけでなく多面的にとらえるために、大変有意義に視聴させていただきました。

○これまでに担当した被疑者・被告人や虐待を受けた子どもやいろいろな人の顔が浮かびました。ひとりぼっちにしないこと、大切だと改めて感じました。

○暴力の連鎖をとめるという言葉が深くささりました。

○きちんと自分と向き合う前に、きちんと向き合ってもらえる場が与えられること。とても大事だと思いました。子どもたち、一人一人ときちんと向き合える大人の一人になりたいと思いました。



○子どもの居場所や地域で子どもを真ん中に置く大切さを認識できた。加害者もケアされるべき存在であると考えさせられた。

○ホームの職員のお2人のお話、心にしみました。天野さんの覚悟にはいつも圧倒されていますが、さらっとお話される姿に自分にもできることを見つけられそうな勇気も頂けています。

○どのような取り組みもハチドリの一滴から広がると信じたいです。

○子どもが訳が分からないまま、虐待を受けている状況をどうやって防げるか、防いでいくことが出来るのか真剣に考えていきたい。

○WAKUWAKUホームの取組に共感し実際のお話を聞きたいと思い参加致しました。家に居場所がない、親と距離をとりたい子どもの行き場がない、一時保護という先手串になってしまうことが、乱暴に思えることがあります。行政にはない。かゆいところに手が届くような支援に感銘を受けます。映画を見て、加害者の中にある被害者に向き合うことでその人自身がその人の主人公になっていくことがよく分かりました。この方たちの幼少期に差し伸べる手（大人）があれば違ったのになどと考えさせられました。

○子どもたちを地域で見守り育てる、WAKUWAKUさんの取組が子どもたちにそして、社会にいかに必要か、改めて感じる機会になりました。

○子どもが感情を押し殺すことなく安心して表出できる場所って本当に必要だと思います。思考がゆがむ前に多くの人と関わり、気づけることで将来困ることにならないのではないかな。場所を作ることが難しくても、身の回りで声をかけたりすることからでも少しずつ子どもに寄り添える社会を作っていければ良いと思います。

○暴力の連鎖を止めるということは暴力の与える影響を知ってお互いにそれをしない方法をとること。暴力を受けたら、その時の自分の感覚・感情を麻痺させずに周りの人たちに生かしていくことの大切さを理解できました。

○天野さんの思いと現場のスタッフの声が聴けてよかったです。あたたかいスタッフに囲まれて子ども達の笑顔が輝くんだなあと思いました。

○子どもの居場所や地域で子どもを真ん中に置く大切さを認識できました。加害者もケアされるべき存在であると考えさせられました。



WAKUWAKUホーム 2017年4月～

地域の子どもを地域で見守り育てるために

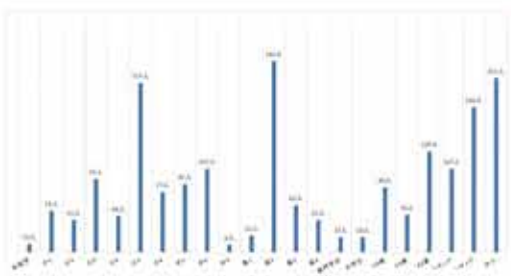
～“WAKUWAKUホーム”の実践より～

- 宿泊支援：子どもが泊まれる場所
- 居場所の提供：学習支援、遊びの支援、食の支援
火・木 小学生中心 水・金・土 中学生中心
- 相談支援

地域の子どもを地域で見守り育てるために一時的にあずかれる場所が必要

※日本財団「子ども第三の居場所」の助成事業です。

認定NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク
事務局長 天野敬子(精神保健福祉士)



2022年度利用者数
(宿泊者除く)
延べ1922人

宿泊者数
延べ384泊

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4人	6人	3人	7人	7人	3人
9泊	7泊	25泊	37泊	63泊	28泊
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4人	3人	4人	3人	1人	2人
24泊	25泊	25泊	41泊	28泊	22泊

長期に宿泊した子どもたち

姓(仮名)	性別/学年	宿泊先	宿泊者	滞在期間	ホームステイ後
A	男子 中学3年生	子ども食堂	子ども若者支援員	9ヶ月	家庭復帰
B	男子 高校3年生	学校	先生	1年	自立
C	女子 高校3年生	学習支援	弁護士	8か月	自立
D	女子 中学3年生	入学応援給付金	保護者	5か月	家庭復帰

宿泊支援

ひとり親家庭の子育ては大変

- ◎急に出張になってしまった。
- ◎緊急入院することになった。
- ◎今日は器で食事を作れない。
- ◎これ以上子どもといると叩いてしまいそう。
- ◎家に帰りたい(子ども)⇔子どもと距離をとりたい(親)

既存の制度を利用して

里親、ショートステイ協力家庭を増やす
↓
地域の家庭に一時保護委託したり、虐待予防としてショートステイを利用する。
↓
インフォーマルにもつながりをつくっていく

“親戚のお家”の必要性
※親子が実家のように頼れるお家



- ◎子どもが安心して泊まれる
- ◎地域や学校から切り離されない
- ◎母も安心して相談できる

「貧困・虐待」の連鎖から「おせっかい」の連鎖へ



Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

おわりに

2月に豊島区児童相談所ができました。児童相談所から見守ってほしいと頼まれることも増え、都児童相談所のときとは違い、連携がスムーズにできるようになりました。やはり、各区に地域に根ざした児童相談所ができることの意義は大きいと思います。

地域の子どもは地域に戻ってくる人が多いのです。施設や里親にあずけられたとしても、18才になれば成人です。その後の長い人生を、できることなら、親御さんと良好な関係になり、何かあったときには頼れる実家であってほしいと思います。

この一年、母一人子一人で逃げ場がなく、煮詰まってしまう家庭にいくつも遭遇してきました。一時保護やショートステイという制度はあるけれど、もう少し、緩やかに日常的に遊んだり泊まったりできる場所があるといいと思います。そういう思いで創ったのが、WAKUWAKUホームですが、ホームのような場所が区内にあと2か所はあったら良いと思います。豊島区も広いですし、小学生は近所でないと利用できないからです。

また、週末里親のような、週末だけ預かるとか、長期休みにお泊りできるとか、毎週水曜日(週半ば)に1泊するなど、親戚のお家のように利用ができると良いと思います。おせっかいなお家が増えていきますように・・・



畑でとれた野菜と共にご寄付いただいたお花です

WAKUWAKUホーム 担当 天野敬子





みんなが帰ってこられるHOMEになれば
そんな願いを込めて・・・

WAKUWAKUホームは、以下の助成を受けて運営しています

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION



団体名

認定特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク

住所

〒170-0011東京都豊島区 池袋本町1-28-1サンスプレnderキタイケ 102号

TEL

050-5526-1229 受付時間:10:00~17:00(土日祝日を除く)

E-mail

info@toshimawakuwaku.com

Webサイト

<https://toshimawakuwaku.com>